

# 日本防災士会 千葉北

第 35 号 2019 年 1 月 1 日発行

## 今号の内容

- 災害トイレシンポジウムより 1
- シリーズ「地区防災の推進」 3  
浦安市富岡エステート自治会
- アマチュア無線部設立 6
- お知らせ 7
- 北部支部会員さん紙上インタビュー 8  
渡邊一弘さん
- 高場捷美さん 9
- 北部支部の防災支援活動 10
- 新会員紹介 11
- 編集後記 11

## 災害時トイレ

### シンポジウムより

11月20日(火)東京都内で公益社団法人SL(セーフティリーダー)災害ボランティアネットワークの主催で行われました。以下に骨子を紹介します。

#### リレートーク



はじめに「災害時のトイレの課題」を3名のSLがマンション住民の視点、女性の視点、全体の視点でそれぞれ問題提起しました。北部支部の防災士でもある平山優子さんは女性の視点から問題提起し、新潟中越地震、東北太平洋沖地震、熊本地震で女性を対象にして実施されたアンケートの結果などから災害時のトイレに関する課題を抽出し「避難所のトイレは3K!」と題して発表しました。

- K かわいい : 夜間照明の不足、昼間も安心できない場所に設置、子供も対象となる性暴力問題
- K きたない : 育児・介護を担う女性から見た衛生面・健康面・生活面の問題
- K 改善されない: 男女別トイレの要望、女性用トイレの不足、生理用品に関する問題

女性が運営に参画している避難所が少なく、男性だけで運営しているケースが多いため男性達が種々の対応で疲労困憊しており、女性たちが抱えている困り事を相談しづらい状況であったこと、勇気をだして要望を伝えても「個人のわがまま」と取られ、女性

たちの意見が通らないことが多かったこと、このような状況が災害の度に繰り返されていることが報告されました。

## 講演 1

徳島県危機管理部の谷 寛文氏からは徳島県の「災害時快適トイレ計画」の紹介がありました。目標を「災害関連死ゼロ」として危機管理部の中に「とくしまゼロ作戦課」を設置し 2017 年から活動を進めています。県・市町村にトイレ関係部局を作り、2020 年までに県民の災害時トイレ備蓄率 50%、災害時トイレ知識普及率 100%を達成することを目標とし、快適な避難所トイレを実現するために以下の点に努力しています。



- トイレ数量を増やし待ち時間を短くする
- 衛生的で清潔なトイレにする
- 防犯対策をする
- 洋式トイレを確保する

徳島県では他県で発生した災害に対してすぐに支援隊を派遣して救援活動を進め、持ち帰った情報を県の防災力の向上のために活用しています。

## 講演 2

減災と男女共同参画研修推進センター共同代表の浅野幸子氏から「女性の視点からみた災害時トイレの問題点と防犯上の問題」のテーマで以下のような講演がありました。

- 3・11 東日本大地震においては女性リーダーが不在であった。熊本地震においても災害対策本部における女性への配慮意識がまだ低かった
- 欲しい物は 100 人 100 様で異なる。これを知ることが人道支援の国際基準(マニユアル)である。「我慢しろ、皆が我慢しているんだ！」であってはならない。
- 避難所における第一優先事項はトイレ



の司令塔を作ること。名簿作りなどより優先すべきである。排泄物を衣服につけて歩き回る人が現れないように。

- 障害者にも男女格差がある。障害のある女性は情報をもらうことも情報を出すことも難しい。
- トイレの管理・運営は男女で行うことが必要。
- 安全面の配慮  
トイレ設置場所 トイレへの通路と個室の夜間照明」 個室は施錠可能に防犯ブザーの設置
- 衛生面の配慮  
トイレ専用履物を用意（屋内） 手洗い用水の確保 消毒液・消臭剤・防虫剤を用意 暑さ・寒さ・風雨対策
- 女性・子供への配慮  
男女別に 生理用品処分ごみ箱 荷物置き 子供と一緒に入れるスペース オムツ替えスペース
- 高齢者・障害者への配慮  
洋式トイレの確保 段差をなくす 介助者も入れるスペース
- その他  
外国人への配慮（表示言語） 人工肛門・人工膀胱用装具交換スペース 乳幼児のための補助便座

我慢しないこと、つらい時には「つらい」と声を上げることが大切。我慢と根性に頼る防災ではなく合理的で科学的な防災が大切です。

## シリーズ「地区防災の推進」

～浦安市富岡エステート自治会～

浦安市の富岡エステートは築年数 35 年、7～8 階建て 4 棟で構成された総戸数 256 戸、約 1000 名が居住する集合住宅で自治会を持っています。長年にわたり自治会役員として地域防災力の向上に努力して来た北部支部の樋口正防災士に活動の歴史を聞いてみました。

## 低調な防災訓練

マンションは 1981 年に建設されその後 1987 年に自治会が作られました。その数年後に行政の指導を受け自治会の中に防災部を作り、毎年 1 回の防災訓練と防災用品の備蓄を行ってきました。しかし訓練参加はほとんどが自治会役員にとどまりなかなか参加者が増えませんでした。



## 自主防災隊を作る

こうした状況を改善するために平成 19 年に自治会とマンション管理組合が協議し共同で自主防災隊を作りました。

## 自主防災隊の構成

- 自主防災隊には居住者全員が所属します。
- 防災隊員は約 12 名で自治会と管理組合の役員の中から同じ人数を選出します。
- 防災隊長にはマンション管理組合の理事長が、2 人の副隊長には自治会長と管理組合副理事長がそれぞれ就きます。管理組合の役員任期が原則 2 年なので防災隊長と副隊長の任期は 2 年、自治会の役員には任期制が無いので副隊長の 1 人は支障が無い限り継続します。これにより防災活動の一貫性と継続性が保たれます。樋口防災士は現在自治会長として自主防災隊の副隊長をつとめています

## 自治会と管理組合の役割分担は？

自主防災隊の運営は自治会と管理組合が共同で行います。防災に関する事項で行政にかかわることは自治会が担当、建物などにかかわることは管理組合が担当する形で役割を分担し業務遂行能力を高めています。

## 自主防災隊の最初の仕事は？

従来 15 ページ程度の防災マニュアルを持っていましたが、3・11 東日本大地震で実用性に欠ける事がわかりました。それで自主防災隊で協議し A4 サイズ用紙 1 枚にまとめたシンプルで実用的なマニュアルを作りました。

## 防災訓練の内容を刷新

以前は消防署に一任して心肺蘇生、消火器使用、煙体験などを中心に毎年の防災訓練を行っていましたが、樋口防災士の提案で 2016 年に防災士会北部支部、東京都支部、



BCN などの協力を得て初めて自前の防災訓練を計画し実行しました。以後、毎年の防災訓練を北部支部などの協力を得て行っています。

### 広域での防災連携は？

浦安市の防災課が事務局となり、自治会連合会により自主防災組織連絡会がブロック単位で年 4~5 回開催されています。旧市街地、

埋め立て地域、海岸寄りの新しい埋め立て地域の 3 ブロックです。この連携の一環として富岡エステートが所属する富岡小学校区での避難所運営訓練が行われています。そこでの訓練においても運営マニュアルが参加自治会で立ち上げたプロジェクトチームの共同作業で作られ、本年 9 月の避難所運営訓練で初めて試行されました。この運営マニュアルは学校代表、浦安市防災課担当、プロジェクトチームメンバーによる合同会議において説明され審議を経て正式に採用が決定されました。



備蓄品と樋口防災士



### 課題は？

- 若い世代への継承がなかなか進まないこと。
- 自治会自体も高齢化が進み自治会加入率が低下傾向にあること。

これらに対する妙案はありませんが今後は 50 代世代の自治会長さんを立て、より若い人達の参加を進めるよう努力を払っています。

### 結び

浦安市では各自主防災組織が策定した「地区防災計画」を受けて吟味・評価する体制にはまだ至っていない様です。まずはすべての基礎となる各地域における自主防災組織の活動の推進と内容の充実が大切であると思われます。



備蓄倉庫



# 北部支部にアマチュア無線部設立

アマチュア無線部会代表 熊澤 晃 防災士

このほど北部支部にアマチュア無線部を作りましたのでその経緯と意義を説明します。

## 契機・発端

一昨年3月、あるメールマガジンの記事を目にしたことが発端です。東北復興アマチュア無線フェスティバルの開催を取り上げた記事の中に「アマチュア無線は災害時に強く、防災士会でも全国各地でアマチュア無線部を作る動きがある。防災士が通信分野を活動のひとつとしてとらえアマチュア無線と連携する意義は大きい」と書かれていました。実は私は2016年の熊本地震において約1ヶ月間にわたり被災地との定時連絡や現地のアマチュア無線仲間に飲料水を届ける活動などを通してアマチュア無線の有用性を実体験していました。ですからこのメールマガジンの記事に大変触発され北部支部にアマチュア無線部を作ろうと決意しました。

## アマチュア無線通信

現在のアマチュア無線は巨大アンテナを使う短波通信の他に、デジタル音声通信をインターネット網で結んだ通信や、災害発生時に非常通信( )に活用できる共通の周波数などがあり、非常通信訓練を定期的に行っているアマチュア無線ボランティア団体があります。携帯型無線機とインターネット環境があれば全国と通信ができ、これを使うことで被災地を他地域からバックアップし画像や位置情報の共有もできます。

## 私のキャリア

会報第30号「紙上インタビュー」で自己紹介しましたように無線資格を持ち、日本アマチュア無線連盟東京都支部の防災議員として活動しています。このキャリアを活かして自主防災組織の無線連絡網の構築やインターネットとアマチュア無線を活用したネットワーク通信構築の支援などを行っています。

## 抱負

地域防災で無線の活用を広げるための啓蒙活動をしたいと思います。また防災士会の全国各地のアマチュア無線部、その他のアマチュア無線団体、個人アマチュア無線家などと非常通信訓練などを通じて連携を図りたいと思います。無線の活用に興味のある方はどうぞ声をかけてください。

## 非常通信

無線局は免許状に記載された目的と相手、若しくは通信事項の範囲を超えて運用してはならないことになっていますが、電波法（昭和 25 年法律第 131 号）第 52 条第 4 号の規定に基づく非常通信（地震、台風、洪水、津波、雪害、火災、暴動その他非常の事態が発生し、又は発生するおそれがある場合において、有線通信を利用することができないか又はこれを利用することが著しく困難であるときに人命の救助、災害の救援、交通通信の確保又は秩序の維持のために行われる無線通信をいいます）等を行う場合は、免許状に記載された目的等にかかわらず運用することができます。

## ～お知らせ～

防災士会北部支部は本年設立 10 周年を迎えます。この間、会員数、会員の多彩さ、スキルレベル、支援活動のボリュームと内容など、大きく発展を遂げてきました。その陰には多くの会員の皆様による多くの努力がありました。次号会報では支部の基礎を築いた 10 年の歩みを振り返ってみたいと思います。尚 10 周年記念行事は 6 月 1 日（土）午後千葉市文化センターアートでの開催が決まっています。



## ♪ 北部支部会員さん紙上インタビュー ♪

### 渡邊一弘（わたなべ かずひろ）さん



Q.出身地と自己紹介を簡単にお願いします。

A.外房線大原駅から大原海岸に向かい約2.5キロ徒歩で約25分の海岸から200mのところに住んでいます。生まれも育ちもいすみ市です。

Q.これまでのキャリア（お仕事など）を教えてください。

A 東京消防庁に勤務し火災、救助、救急など事務的な業務も含め災害対応に直結する仕事を主にやってきました。

Q.特技、お持ちの資格、得意分野を教えてください。

A 特技は特にありませんが「やれ」と指示されたことはやり遂げるという「即動必遂」がモットーであることから得意な分野は救急・救助訓練などの実技指導、地震火災予防に関する講話などです。

Q.防災士になられたきっかけはなんですか？

A.自分にできる社会参加と貢献は何かと自問自答した末、市民の防災力の向上に役立ちたいと思い資格を取りました。

Q.地域等で何か防災活動に取り組んでおられますか？

A.いすみ市文化財保護協会の会員であることから、現在市内の小字名とそれに関わる災害について調べています。（災害地名）

Q.2011年東日本大震災の時にはどのような体験をされましたか？

A 江東区役所の8階で会議中でした。尋常ではない揺れに驚き「緊急事態発生！」と会議の中止を進言し勤務署に急遽戻り署隊本部の開設・運用と管内で発生した災害対応等を不眠不休で行いました。

Q.今はまっていること、熱中していること、趣味などがありましたら教えてください。

A.現在無職となり毎日楽しく過ごしています。昨年は自分史を作成し本年は郷土史（地元いすみ市の小字名と災害）の調査研究に取り組んでいます。

Q.北部支部の活動に期待すること、取り組んでみたいこと、ご意見などがありましたらお聞かせ下さい。

A.北部支部の活動は社会的な信頼が高く素晴らしいと思います。まずは来年6月1日実施予定の設立10周年記念式典を目標に会員みなさんと連携して鋭意努力することです。よろしくお願いいたします。

Q.将来の夢をお聞かせ下さい。

A.防災普及活動を通じた市民との交流の中で少しでもお役に立てればと願っています。



## ♪ 北部支部会員さん紙上インタビュー ♪

### 高場捷美（たかば かつみ）さん

Q.出身地と自己紹介を簡単にお願いします。

A.東京都で生まれ神奈川県育ち、就職を期に千葉県に移り現在に至ります。

Q.これまでのキャリア（お仕事など）を教えてください。

A.重工エンジニアリング会社で船舶、海洋構造物の設計、建設工事のプロジェクト管理に従事。退職後、千葉県災害対策コーディネーターや赤十字防災ボランティアなど災害ボランティア団体に属し、防災啓発活動や訓練に参加しています。

Q.特技、お持ちの資格、得意分野を教えてください。

A.一級土木/建築/管工事施工管理技士、潜水士、長生郡市消防本部応急手当普及員、赤十字救急法救急員、茂原市防災指導員などです。

Q.防災士になられたきっかけはなんですか？

A.赤十字防災ボランティアに登録し、赤十字救急法救急員の講習を受けた際に勧められたことがきっかけです。

Q.2011年東日本大震災の時にはどのような体験をされましたか？

A.自宅で大きな揺れを体験しました。被害は壁の亀裂程度でした。その後、市原市内、千葉市内で募金、救援物資の受付を行い、旭市、名取市で災害ボランティアセンターのスタッフ業務を行いました。

Q.今はまっていること、熱中していること、趣味などがありましたら教えてください。

A.週2、3回日本武道館に通い、弓道を通じて心身の修養を行っています。また四国遍路、坂東三十三観音巡礼など札所巡りを行っています。

Q.北部支部の活動に期待すること、取り組んでみたいこと、ご意見などがありましたらお聞かせ下さい。

A.地域の要請に基づき行う講演や訓練に使う教材の標準化と拡充を進めていただきたいと思います。

Q.将来の夢をお聞かせ下さい。

A.特にありません。日々自分を生かしてくれるすべてに感謝し、「定命」に従って生きてゆきます。



## ～北部支部の防災支援活動(2018年9月～11月)～

北部支部は以下の防災行事に参加協力しました。

ご協力大変にありがとうございました。

- 9月2日(日) 平成30年度市原市総合防災訓練(市原市)
- 9月3日(月) 一宮中学校避難訓練(長生郡一宮町)
- 9月7日(金) 習志野市立実籾小学校防災体験学習(習志野市)
- 9月8日(土) 第36回小金原地区合同自主防災訓練(松戸市)
- 9月22日(土) 野田宿防災会防災訓練(野田市)
- 9月23日(日) 野田市東新田自主防災訓練(野田市)
- 10月4日(木) 習志野市立実籾小学校6学年高齢者体験サポート(習志野市)
- 10月7日(日) インプレスト稲毛防災訓練(習志野市)
- 10月8日(月) 船橋アリーナスポーツフェスティバル(船橋市)
- 10月14日(日) プラザ西白井防災訓練(白井市)
- 五町会自治会合同防災訓練(船橋市)
- 10月17日(水) 船橋市立湊中学校防災訓練(船橋市)
- 10月18日(木) 佐倉市民カレッジ防災訓練(佐倉市)
- 10月21日(日) 野田市総合防災訓練(野田市)
- 10月27日(土) 大宮公民館防災対策教室(千葉市)
- 11月3日(土) 日本大学生産工学部桜泉祭(習志野市)
- 11月4日(日) 白井市総合防災訓練(白井市)
- 11月7日(水) 柏市総合防災図上訓練(柏市)
- 11月10日(土) 野田市消防救急フェア2018(野田市)
- 11月11日(日) 野田市船形中自治会防災訓練(野田市)
- 11月13日(火) 船橋市立三山中学校防災訓練(船橋市)
- 11月14日(水) 第70回千葉県公民館研修大会(船橋市)
- 11月15日(木) 八千代台東南公民館研修大会(八千代市)
- 11月17日(土) 平成30年度いすみ市津波避難訓練(いすみ市)
- 野田市梅ヶ丘防災自主防災会防災訓練(野田市)
- 11月18日(日) 蔵波台自治会防災訓練(袖ヶ浦市)
- 津田沼ローヤルコーポ自治会防災訓練(習志野市)
- 11月19日(月)、20日(火) 日工株式会社イベント(野田市)
- 11月22日(木) 山武西まちづくり協議会・西小学校地震対策勉強会(山武市)
- 11月23日(金) 野田市3自治会合同防災訓練(野田市)
- 11月24日(土) 野田西亀山青年館近隣自治会合同防災訓練(野田市)
- 11月25日(日) 白井市清水口小学校部支部防災訓練(白井市)
- 11月29日(木) 習志野市立実籾小学校防災学習(習志野市)
- 11月30日(金) 南房総市立富山小学校防災関係防災教室(南房総市)

## ～新会員の紹介～

2018年9月以降、以下の方々が北部支部の会員になりました。  
北部支部の会員数は125名です。(2018年12月22日現在)

真船和子さん(習志野市)	宮田純一さん(流山市)
塚本竜太郎さん(柏市)	鈴木和雄さん(鴨川市)
田中睦生さん(松戸市)	山口良男さん(印西市)

## 編集後記

平成30年の漢字は「災」でした。災害の多い1年であり災害対策すなわち防災への意識が高まった1年でもありました。北部支部は昨年多くの方面からの要請で沢山の防災訓練や行事に参加して参りました。1人でも多くの方が防災意識を高めていただき、自助・共助の大切さを学んでいただきたいと思います。

本年、北部支部は結成10周年を迎えます。更に防災の大切さと有益な情報を発信できる会報作りに務めてゆきたいと思いますのでどうぞ宜しくお願いいたします。

広報担当：茂木 宏 飯岡 孝 中村あや子  
事務局の連絡先：竹内哲志 ([takeuchi.srmmp@nifty.com](mailto:takeuchi.srmmp@nifty.com))  
広報担当の連絡先：koho.chibakita.bousaisi@gmail.com

